



発行 青葉区民会議

事務局 〒225-0024 横浜市青葉区市ケ尾町31-4 青葉区役所区政推進課広報相談係内

Tel:045-978-2221 Fax:045-978-2411 Email:mail@aobakuminkaigi.com

URL:http://www.aobakuminkaigi.com/ または「青葉区民会議」で検索

入手先：青葉区役所、地区センター、地域ケアプラザ、区民活動支援センター、図書館、区民利用施設など

青葉区民会議

検索



## 減災サミットを開催！

「みんなで作る地区防災計画」が始まります。

地域での防災の取り組みを聞いてみませんか？

\*みんなで作る地区防災計画とは・・・内閣府が進めている「地区防災計画」のことです。あなたの住むコミュニティの特性にあった「地区防災計画」を住民が力を合わせて作ることができる制度です。災害時の準備と行動計画をみんなで作ります。それが地区防災計画です。



3月8日（日）午後2時～4時半



青葉区役所4階 会議室

先着順100人 申し込み不要 直接会場へ

「えっ！いま あなたのまちに災害が起きたら！」

### ◎一部 コミュニティや地域での取り組み紹介

こんな取り組みが始まっています 聴いてみましょう

- ・129世帯でマンション防災（ピアス市が尾）
- ・いざという時のオヤジパワー（あざみ野第二小学校オヤジの会）
- ・障害があっても自力で考える（えだ福祉ホーム）
- ・帰宅困難への備えは？（男女共同参画センター横浜北）
- ・保育施設でも防災まち歩き（家庭的保育室なないろ）
- ・大学でお泊り訓練？ 地域住民と大学（日本体育大学健志台キャンパス）他

### ◎二部 専門家に話を聞きます

お話し：鍵屋一さん（内閣府地区防災計画アドバイザー）

これからの「みんなでつくる地区防災計画」とは

### ◎三部 みんなの意見を聞き話しあいましょう

あなたのまちの防災計画はどうしていますか？



災害は地震  
だけじゃない



あるある  
ゲリラ豪雨



あるある  
たつ巻

「お願い」  
開催日は日曜日です。  
区役所への出入りは、夜間  
通用口をご利用ください。

## 区民会議はみなさんの意見をお聞きします

### 安全・安心・まちづくり部会

安全で安心な「まちづくり」について社会環境の変化を取り込んだ活動を行います。減災についての公開・出前講座の開催やすべての人を対象とする「ユニバーサルデザイン」のまちづくりに取り組んでいます。

＜減災出前講座＞ 会場：大場地域ケアプラザ

『日常から楽しく災害食を』開催 2014年12月14日(日)

大場地域ケアプラザ主催、区民会議共催、自治会後援という形で協働開催が実現しました。(あざみ野白ゆり・大場一心会・禅当寺・みすずが丘・やよいが丘各自治会)

- ・家庭内食料ストックのできる美味しい災害食
- ・家庭内食料ストックの診断(備蓄品チェックリストの実習・評価)
- ・災害食調理実習と試食(鯖缶パスタとじゃがりこサラダ)参加者には災害食を楽しく美味しく賞味してもらい、区民会議提唱の「楽食」の考えを理解していただきました。地域ケアプラザ事業の一環として実現したこと、災害食メニューはヘルスマイトでもある部会員の協力、地域住民の参加は自治会が後援したことで関心をもってもらえたことなど地域での連携・協働の大切さを実感しました。今後は、区内のケアプラザや自治会・マンション管理組合などへ出前講座を呼びかけ、いっしょに講座開催ができるようにしていきます。関心がありましたらぜひ、ご連絡下さい。



男性参加者もチャレンジ



ヘルスマイトらしい工夫料理を体験

利用する施設があります。駅や道路、公園など高齢者や障害のある人を含め、みなさんが安全に使いやすくするために検討が行われます。

＜市が尾バリアフリーまちあるき＞ 2014年12月15日  
横浜市(青葉区)では「市が尾駅周辺地区バリアフリー基本構想」の策定が進められています。市が尾駅周辺には区役所を始め区民が

12月15日に区主催の情報収集のためのまちあるきがあり、参加。さらに12月22日は部会独自のまちあるきを行い、課題・問題点を抽出しました。この基本構想への区民向けの情報募集が昨年行われました。区民会議は区民まつり会場で区民アンケートを行いました。これらを含め、区民会議として意見提出の予定です。



土木事務所も同伴 実寸記録もします



商店街の側溝や植栽 対策は？

### 防災コラム(寄稿文) ⑤ 災害避難において、真の自助とは自衛であるべき 防災アドバイザー 佐藤栄一

昨年多発した土地災害の人命被害には共通した要因があることに気づきました。それは、行政の避難指示が無かったり、遅れたことで住民が避難をしなかったことによって発生した悲劇です。避難指示を発表する首長と避難行動をする住民との根本的な誤りが過ちを引き起こしたと私は判断しました。

危機対応に際して、自己防衛は本能的に状況を判断して瞬間的に防御行動を起こす、これが自衛です。行政の避難指示を待ちながら不安・恐怖におびえていたとしたら、何と悲しいことでしょう。避難勧告や避難指示は地域包括的な行政作用と認識すべきで、個々の生命確保は個々の自己防衛本能を発揮すべきと私は提言します。大地震時の自助を考えると、生命損傷は揺れている間に発生します。消防も町の防災組織も隣人も家族でさえ、あなたを助けることはできません。自助共助公助について、接頭辞に『真の』をつけてもう一度考えましょう。

# 区民会議はみなさんの参加をお待ちしています

## 自然・環境部会

青葉区には未だ多くの自然が残されています。今回の区民アンケート（次ページ）でも「緑の減少はやむを得ない」と答えた方はごくごく僅かです。当部会は「青葉区の原風景」や公園・街路樹の保全を勉強しています。

今回は、平成27年度予算への要望・提案と自然を活用する再生可能エネルギーによる発電の観察会を紹介します。

### 平成27年度予算への要望・提案

青葉区をはじめそれぞれの区は、各区の特性やニーズに応じた「自主企画事業費」という予算があります。しかし、青葉区のこの事業費には自然環境の保全に関わる予算はありません。この分野は横浜市が主導するとはいえ、区に「自主企画事業費で区内の自然環境の保全に一層の注力」を要望しました。また、恩田地区には魅力的な水・緑環境、里山里地(右の写真)が残っていますので、谷戸のある里山を市民が散策できる様に「(仮称)恩田市民の森の早期の開園」を市に要望しました。



恩田地区の森

### 観察会 再生可能エネルギーによる発電 (2014年9月)

横浜市水道局の川井浄水場(旭区上川井町)を訪問し、2種類の再生可能エネルギーの発電設備を見学しました。小水力発電は、相模湖からの水道用水の水を活用し、大変コンパクトな設備ですが330世帯分の電力を生み出しているとの事。太陽光発電はソーラパネルが1400枚も設置されています。両設備とも発電した電力は浄水場内で使用するそうで、「エネルギーの地産地消」の実例を勉強出来ました。また、我国最大級の省エネの膜ろ過施設「セラロック」も見学し、横浜の水道水は省エネのカタマリ、を実感しました。

## 健康・福祉・教育部会

健康・福祉・教育という幅広い範囲の部会となっていますが、その時々行政テーマ等に合わせた活動を行っています。また、3人以上の同志によるプロジェクト活動も可能です。

当部会は、「市が尾駅周辺バリアフリー基本構想」をきっかけとして、安全・安心・まちづくり部会との一部協働を開始しました。当事者や市民の視点でバリアフリーを考える上で福祉という視点はもちろんですが、まちづくりという視点も大切であるとの考えからです。

よく私たちは、行政の縦割りについて批判しますが、区民会議にも縦割りの部分があるのではないかと感じました。多くの住民の望むことそしてメリットとなることを一つでも多く実現させていくよう、常に住民サイドからの視点で活動することが、区民会議に求められることだと思っています。



現在、区民会議のあり方や部会のあり方についての話し合いが行われていますが、そこには多様な意見が存在します。多様性というものを尊重しながら、共通のテーマに向かって活動しなければならず、正直難しい部分も痛感しています。4月より第11期の区民会議が始まります。来期のテーマについての話し合いも進行していますが、自分の住むまちに様々な課題や問題点を認識し、なんとかそれを改善したいと思ったことのある方は、ぜひ区民会議に参加してください。



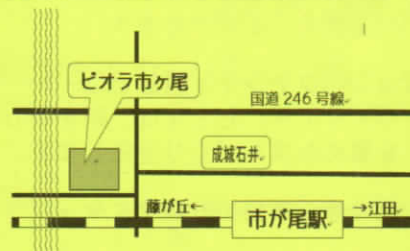
### 子育てママが行く

### ビオラ市ケ尾地域ケアプラザ

今回は市が尾駅から徒歩4分、区役所からも近い『ビオラ市ケ尾地域ケアプラザ』を紹介します。誰もが住み慣れたまちで元気に安心して暮らせるように、地域交流活動の場として、赤ちゃんから高齢者の方を対象に様々な催しや情報を提供しています。春には文化祭、秋には収穫祭も行わ



れ、収穫祭では、ビオラの畑で採れた新鮮な野菜の販売、健康測定会や体と脳を鍛えるスクエアステップの体験などがありました。この春から、新たに歌声サロンや心を育む講座も開講されるそうです。ホール・会議室の貸し出しもあり、福祉・保健活動やサークル活動も盛んです。区民会議の部会でも利用しています。地域ケアプラザってどんなところ？どんなことをしているの？と疑問に思われている方は、ぜひ一度足を運んでみてください。きっと役立つ情報に出会えると思います♪



# 青葉区まちづくり指針の改定が今！行われています

## 『「青葉区まちづくり指針(H14)」改定への提案』\*1を提出！

住み続けたいまち 青葉 ～多世代で暮らすまち 回帰するまち 青葉をめざして～  
提案を作成するために昨年「青葉区民アンケート」を実施  
1028人から意見をいただきました。その一部を紹介します。

質問ーあなたが今住んでいる地域は次のどれに近いと感じますか？  
(1つ選択)

ア 近くに公園や街路樹があり緑が多い地域	569
イ 商店が近く買物に便利な地域	72
ウ 田んぼや畑が近くにあり田園風景が身近にある地域	139
エ 近くに緑が少ないと感じる地域	18
オ 駅が近くて生活に便利な地域	165
カ 公共施設が近くにある生活に便利な住宅地	27
不明	29

横浜市都市計画マスタープラン(全体構想)(H25)では7つの都市づくりの目標がかかれています。その中のひとつに  
人口減少・少子高齢化に対応した  
**集約型都市構造**への転換と、  
人にやさしい鉄道駅を中心とした  
**コンパクトな市街地の形成**があります。  
では、青葉区民はどう考えているのでしょうか？

今回のアンケートでは、ほぼ区内全域から意見を得ることができました。そして、街のみどりや田園のみどりを身近に感じていると回答した人が約7割に上ります。このことは青葉区全体がみどりに包まれたまちだと多くの区民が感じていると判断しました。

質問ー青葉区のまちづくりの方向性として次のどちらにあなたの考えは近いですか (1つ選択)

ア 駅を中心に施設を集めて生活に便利なまちづくりを進める	241
イ 地域に必要な施設を集めて歩いて生活ができるまちづくりを進める	748

アンケートに回答した青葉区民の7割を超す人たちが、地域に必要な施設がある便利なまちづくりを今後進めてほしいという結果になりました。横浜市都市計画マスタープラン(全体構想)で掲げている【**集約型都市構造=コンパクトシティ\*2**】ではないまちの将来像を多くの人が願っていると判断しました。

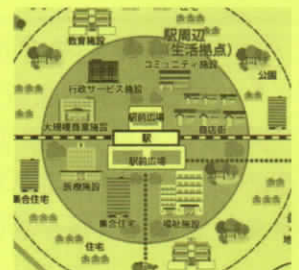
### 青葉区民会議の提案

- 1) 「**緑豊かな**まち、生活に**便利な**まち」を目指すこと。
- 2) 30万都市としてすでに成熟しつつある中で、駅に集約を求める「コンパクトシティ構想」のようなまちづくりではなく、**区内全体に緑があり居住地域に住みやすさ**を向上させること。
- 3) 住民のまちづくりへの意識が高いことから、まちづくりの工程表を具体的に区民に提示し、さらに住民参加の定期的な話し合いの場・機会を設けることをまちづくり指針の中に明示すること。
- 4) さらに住民の生活に近い地域での具体的なアクションプランとして「地区プラン」の策定を進めること。

\*1 『「青葉区まちづくり指針(H14)」改定への提案』は青葉区民会議ホームページから見るができます。

\*2 コンパクトシティ構想とは・・・生活に必要なさまざまな機能・施設を集中させたまちづくりです。たとえば、駅を中心に1キロ内に商店や病院、ケア施設、行政サービスなどを集めたまちづくりを指します。

(図は横浜市都市計画マスタープラン(全体構想)から転載)



### ●減災ネットワークあおばについて

地域防災拠点からの情報や自治会などの地域防災の取り組みなどの情報を提供しています。



青葉区民会議に参加を希望される方は、氏名・年齢・住所・電話番号・メールアドレスを書いて

青葉区役所 1階広報相談係へ Tel:045-978-2221 Fax:045-978-2411 メール: ao-koho@city.yokohama.jp